



Member's Open Space

難しい言葉 粋(いき)

●美咲歯科医師会会員
雨田 実



「難しい言葉」という雑文を何度か道歯会通信紙上に綴らせていただいたところ、何人かの先生がたから種々貴重なご指導をいただいたり、参考にすべき書物名をお教えいただいたりして誠にありがたいことで、道歯会通信紙上をお借りして、謹んでお礼を申し上げる次第でございます。

このたび粋は何か? なんとなく理解はしているが分かりやすく解説を、とのお言葉をいただいた。以前は中年以上の人達のもの如く思われていたものが、最近では若い人達の間でも粋に対する関心は高いようで、様々なメディアで「粋とは何か」という特集が組まれているようです。これだけ粋を希求しているのは、現代には見いだしにくいものになっているからなのでしょう。

「あの人は粋だね、通だね」とはいまでも聞かれるようです。粋と通は同義のようですが、少々違うように思われます。江戸時代の趣味人を大別すると、通人、半可通、野暮に分けられるようです。

通人とは趣味人の最高峰であり、皆が目指すところでは。

半可通というのは、その登頂に失敗して、しかも遭難したことに少しも気付かないで、本人は、その登頂に成功した気になっているのが特徴です。この人達は振られたり、いろいろと馬鹿にされたりする訳ですが、ソコハカとなく哀愁ただよう愛

すべき人達といえるようでしょう。

野暮はいうまでもなくダサイ人です。けれど田舎っぼいとは別に未熟であることもいい、初心な息子は後者の野暮であり、成長株といえます。通人の子備軍もこの野暮のなかにあるのですが、野暮は野暮のままでも、かわいいとか純だとかいわれて、意外と遊女にも、もててしまったりするものです。野暮には通人への可能性が残されているのですが、半可通は通人にはなりえない存在だそうなんです。つまり野暮→半可通→通人という図式は成り立たないといえます。半可通は別種の個体であって、半可通の哀愁というのは、どうやらそのへんにあるといえます。

粋を上方ではスイ、江戸ではイキと読むようです。違いをひと口でいえばスイは艶、イキは色といえるようで、西鶴描くはスイ、春水描くはイキだそうです。ここでこだわっているのは粋ですが、他に意気、好風という当字もあるそうです。

意気は意気地、いさぎよさ、つまり物事に頓着せずさっぱりと、わだかまりのない状態をいい、対する語として尊大、傲慢などがあてはまるようです。

好風は字の如く、よいふう、このましいふうをいい、嫌味のない人好きのする状態です。対する語は気障となります。そして粋とは、きわだった有様をいいます。俗に居て俗に流れない超然とし

た状態でしょう。

このふたつに品の良い色気のエッセンスを加えると粋のできあがりです。これをすべて体現している人を粋な御仁^{ごじん}というわけで、ちょっと斜に構えたスタイルを粋だねえといいますが、これは間違った用法であり、乙な人はいても粋な御仁というような人は、聖人、君子ほどしか世にいないものだそうです。

江戸の粋などというと、エキゾチックジャパンとかジャパネスクとかいう造語がまわり付いてしまうようですが、これなどは日本人が自らいう言葉ではないでしょう。近代日本は強くなるため脱亜入欧を決意して、前世代（江戸）を全面否定することから出発して、つっ走ってしまった結果が現在の日本といえます。おかげで私たちは明治以降の移植民のように身近な先祖の文化であるはずの江戸がスクリーン上の西部劇と同様の距離に感じられるようです。粋の美学は、文化、文政期（18世紀）の江戸に完成し花開いたといわれます。日常倫理をも支配する概念であって、正確無比のモノサシといえるものです。これを持たないことには風土に埋もれている美は見えてこないはずで、しょせんは、エキゾチックジャパンであり、ジャパネスクだという外国人観光客の視点でしかないといえませぬ。

粋になれるかなれないかは別として、粋が何であるか位は知っておくべきだと思います。私達は日々情報の選択を迫られて生活しておりますが、こんなときこそ先祖のモノサシが、似て非ざるものを見分ける伝家の宝刀となって光り輝くのでは

ないでしょうか、と思うのですが。

ホリの深い人は「日本人離れした」というホメ言葉で形容されるようです。日本人の顔はのっぺりしています。だからといって、フェイスシャドウやハイライトで平べったい顔の劣等感を上ぬりするのはヘンな気がする。日本人を「日本人離れしている」といって日本人が日本人をホメテル心算でいうのもヘンだけれど、そういわれて喜んでいようももっとヘンに思えるのですがいかがでしょう。話が横道に入りそうなので、このへんでやめにしますが、粋について少しでもお分かりいただければと存じまして雑文を綴らせていただきました。

